

# 「打吹至誠」市教委が同意

## 倉吉・成徳、灘手小統合 来月中旬、議会に条例案

倉吉市教委は27日、定例会を開き、成徳、灘手小を統合して2023年4月に開校する新小学校の校名を「打吹至誠」とする学校統合準備委員会の案に同意した。年明けに学校教育審議会への諮問と答申を行い、正式に承認する。来月中旬に開く市議会臨時会で市が学校設置条例案を提案する見込み。

(本高屋修)

定例会には小椋博幸教育長と教育委員4人が出席し、事務局が前夜の学校統合準備委の経過を報告。委員は「校名をいつあげたのではなく、地域で愛され、真心を育む学校だと理解できる」など意見し、学校教育審議会に諮問する文面を確認した。また、両校の保護者を対象に、校名案を再選定した過程の説明会を開くことを検討するとして、26日夜に公開で開かれた統合準備委では「打吹」と「至誠」の2案に絞って協議が行われたが、委員の一人が「打吹至誠」を提案。灘手側の委員からは「至誠」

「打吹」2案で小椋教育長に判断を委ねるべきだとの意見もあったが、大半の委員が「片方の名前を否定しないで済む」として賛成が続いた。一方、市教委が最終的に校名を決定し、市議会への説明責任を果たすよう意見が付いた。約5千筆の署名を集めた

住民団体「新校名の再考を求める住民直接請求の会」

の瀬尾泰彦共同代表(69)は「子どもが応募したのだから『至誠』が残ったことは残念だが、納得しなければ。開校準備を応援したい」と複雑な心境を吐露。本内俊彦共同代表(78)は「『至誠』で条例廃止となったのに、これを残したことが理解できない」と述べた。

12.28(本報)

### 互いを尊重、議論から伝わった



記者の

公開で行われた26日夜の学校統合準備委員会。平行線の末に「打吹至誠」の案が出る、両校区の委員が次々と賛成した。これまでの議論で何度も「至誠」と「打吹」でぶつかり合い、それでも互いを尊重して着地点を見いだそうと苦勞してきたことが、議論から伝わった。「打吹山の麓にある、真心を大切に『学校』の意味だ」という地名と理念が同居する珍しい校名だ。委員の一人が言ったように、校名の成り立ちそのものが、認め合うことの大切さを伝える教材になるかもしれない。公開の場で民主的に決まった校名。次は市議会が公正な判断をする番だ。

(本高屋)